

## 桂川・相模川流域協議会 さがみ地域協議会事業

### “鬼怒川のカワラノギク観察会”と交流会参加報告

相模川湘南地域協議会 中門 吉松

1. 日時 : 平成 25 年 10 月 12 日 (土) ~13 日 (日)
2. 場所 : さくら市東京大学カワラノギク実験地、さくら市ミュージアム
3. 参加者 : さがみ地域協議会 (4 名)、相模川湘南地域協議会 (3 名)、  
「カワラノギク」を守る会 (5 名) 合計 12 名

#### 4. 内容

##### (1) “うじいえ自然に親しむ会”との交流会

10 月 13 日 (日) 10:00~15:00

① 前泊した馬頭温泉を 9 時に出発して「カワラノギク実験地」に向かう

② “うじいえ自然に親しむ会” 加藤会長挨拶、参加団体紹介

- ・うじいえ自然に親しむ会
- ・東邦大理学部 西廣淳准教授と学生の皆さん
- ・東大保全生態学研究室 石井潤特任助教と学生の皆さん
- ・栃木県立宇都宮白楊高等学校 教師と学生の皆さん
- ・さくら市の「おきな草」を監視している皆さん
- ・国土交通省 関東整備局 下館河川事務所、氏家出張所
- ・リバーフロント研究所 ・パラグライダー愛好会
- ・桂川・相模川流域協議会・カワラノギクを守る会

参加 : 10 団体 77 名

- 東大保全生態学研究室 石井潤特任助教 : 東大カワラノギク実験地はカワラノギクの維持をするための緊急的な保全地として平成 14 年度に造成した。造成後 9 年を経過し、シナダレスズメガヤの侵入等環境悪化が見られるようになったため、平成 24 年 2 月に一区画 (30m×30m) で礫河原の再生工事を実施した。



施工前

掘り返し

れきの敷き刷らし

現在(砂の散布※)

※雨により、砂が礫間に閉詰り  
され、カワラノギクの生育基  
が形成

この場所は、栃木県の「鬼怒川中流域自然環境保全地域の指定」がついた。

【自然環境保全地域の指定について】

「自然環境の保全及び緑化に関する条例」（昭和 49 年栃木県条例第 5 号）に基づき、自然的社会的諸条件からみてその区域における優れた自然を保全することが特に必要な地域として、宇都宮市及びさくら市にまたがって位置する鬼怒川中流域の 54ha を平成 25 年 10 月 4 日の告示をもって栃木県自然環境保全地域に指定しました。

【鬼怒川中流域自然環境保全地域について】

砂礫の豊富な河原が広がる鬼怒川中流域には、カワラノギク群落やミヤコグサ・オキナグサ群落が広がり、ムラサキセンブリ、アキノハハコグサ等の希少な植物が生育し、河原の植物を食草とするシルビアシジミ、ツマグロキチョウ等のチョウ類の他、ウスバカマキリ等が生息し、礫質河原特有の野生動植物の生息・生育地として優れた自然環境を形成しています。

カワラバッタの研究を主に研究している。カワラバッタ・カワラノギクは礫河原が重要な生息場所となっている。

ピックマトックの説明する

加藤会長と東大石井特任助教



③ シナダレスズメガヤ抜き取り作業

本来は礫河原の在来植物として保全される「カワラヨモギ」が、今年度大発生し実験地を覆ったので、今回は「シナダレスズメガヤ」抜き取りと合わせて成長した「カワラヨモギ」の抜き取りを実施した。…抜き取り作業は“ピックマトック”を使用するのが最適であるとのことだった。

④ カワラノギク観察会

ア) 東京大学カワラノギク実験地の再造成した 2 年目のカワラノギクは満開を迎え薄紫の可憐な花で参加者を楽しませてくれた。

鬼怒川中流域のカワラノギクは相模川よりも紫が濃く感じられた。

イ) 押上地区のカワラノギクを観察する予定だったが時間の関係で中止。



実験地での抜き取り作業



⑤ 勝山城址見晴台で勝山鍋を食べながら昼食休憩

“うじいえ自然に親しむ会”の女性会員が調理した「勝山鍋」に舌鼓を打ち、馬頭温泉の『元湯東家』から持参したおにぎりを美味しく賞味した。勝山城址の見晴台から眺める鬼怒川は玉石河原に覆われ絶景であった。



勝山城址での昼食歓談、見晴台からの鬼怒川中流域一望

【勝山城（別称 氏家城）】

宇都宮公頼は、宇都宮朝綱（宇都宮家3代目）の子で、勝山城を築き「氏家」を名乗った。氏家氏の誕生である。氏家氏は6代目綱元で途絶えてしまい、その後、芳賀高家の子高清が勝山城主となった。宇都宮氏が1597年に改易となると、勝山城も廃城となる。

⑥ 参加団体との情報交換会

（さくら市ミュージアムー荒井寛方記念館講座室にて）

- さくら市大木環境部長挨拶：さくら市を流れる鬼怒川の河川敷には、さくら市の天然記念物に指定されている“蝶・シルビアシジミ“が生息し、食草であるミヤコグサや”うじいえ自然に親しむ会“が保全している「カワラノギク」などが生育しています。今年（平成25年）10月には、栃木県が鬼怒川中流域自然環境保全地域の指定もされました。

“うじいえ自然に親しむ会”松田副会長が鬼怒川の在来生物を5枚組（カワラノギク・シルビアシジミ・ミヤコグサ・ウスバカマキリ・ツチガエル・カワラニガナ・オキナグサなど）のポストカードで作成。収入は鬼怒川中流域の保全活動に使う予定で多くの施設で販売を計画している。



- 東邦大 西廣准教授：東大保全生態学研究室でカワラノギク実験地に関わってきた。“川に自由を取り戻そう”という活動を進めているが、鬼怒川は堤防の幅が広く、川幅も広いので川が自由に動ける環境にある。



石井助教授、西廣准教授と学生さん

- 東大保全生態学研究室 石井特任助教：平成14年（2003）河原を造成して実験地を作成した。10年でカワラノギクの発生～消滅を経験し、2年前に一部を再生した結果、2年目で少しずつ再生してきている。大型の植物（ススキ）やシナダレスズメガヤの侵入でカワラノギクなどの在来植物が衰退した。河原の環境は変わり易いので、観察を続けながら異変を早期に気づき対策を講じていく必要があると認識している。
- 大館河川事務所 田崎副所長：不自由な川（滞筋固定）の玉石が積み上がった場所や植物が繁茂して固定化されたところを平らにならして洪水時に川を再生する試みを実行に移す計画である。ボランティアで活動されている皆様に感謝申し上げる。

- リバーフロント研究所 前村良雄氏：見開きパネルを使って取り組みが紹介された。外来種として指定され野生化したものが2193種ある。外来生物がもたらす影響について説明。



リバーフロント研究所 前村良雄さん

- リバーフロント研究所 前村良雄氏：見開きパネルを使って取り組みが紹介された。外来種として指定され野生化したものが2193種ある。外来生物がもたらす影響について説明。各地の河川ではモーターパラグライダーによる空からの監視をしている。オオキンケイギクの駆除を鬼怒川で行っている。オオハンゴンソウも外来植物。オオカワチシャ（水草の一種）も外来植物。ハリエンジュとの闘い（養蜂家には好まれているが）もある。アレチウリについては、天竜川では、7月に駆除作戦を展開している。ブルーギルやブラックバスは釣り大会を実施して駆除を試みている。
- オキナ草の監視を続ける脇さん：当たり前前に咲いていると気にもならないが無くなると困るので毎日のように楽しみながら監視を続けている。
- うじいえ自然に親しむ会 松田副会長：外来植物の花が河原を覆い尽くしてしまう危惧を感じている。
- うじいえ自然に親しむ会 田代先生（植物関係）：貴重なオキナクサを業

者が商品として盗掘して根こそぎもっていってしまう。

散歩しながら監視を続けて楽しく守る活動を続けていきたい。

- うじいえ自然に親しむ会の方：道の駅の夢産地博に参加してPR活動を行い、河原の生物を缶バッジに印刷したものを記念に渡している。



うじいえ自然に親しむ会 松田さん

小学校の出前授業を「鬼怒川の自然環境」と題して実施している。

自然環境を守る活動は長い目でみて取り組んでいくしかない。

- 桂川・相模川流域協議会参加者の活動紹介：さがみ地域協議会（有井代表）のカワラノギク保全・再生活動について詳細に説明。相模川湘南地域協議会（峯谷代表、中門）から相模川下流域の神川橋下で3年目を迎えた圃場での活動と河原のクリーン作戦



活動紹介する有井代表

参加の中学生に「おじさん達がボランティア」で環境保全活動やっていることをテーマに話し合った。カワラノギクを守る会（男女の吉田さん）は、茂木生まれの故河又氏が1989年から始めたカワラノギク守活動も湘南小学校の全校生徒が「カワラノギクのふる里」として学校教育として活動し、他にも各地で活動の輪が広がってきた。

- 下館河川事務所氏家出張所 小林所長：礫河原の再生として、中洲の切り下げ工事を計画している。重機で10m×500m×1mを平面化して5万m<sup>3</sup>の土砂カット（スケルトンカット）する。中洲があると流下能力が減少して滯筋の固定化が進むのでこれを解消する方向でいる。

- うじいえ自然に親しむ会 加藤会長：上阿久津マップを作成した。上阿久津地区はシルビアシジミ発見の地であり、幼虫の食草であるミヤコクサの花壇をつくり、地区として環境保全活動を盛り上げている。

交流会終了（15:00）



カワラノギク実験地に集まった皆さん

(2) 今回の交流会で参考になったこと

① 活動紹介資料とマニュアルをパンフレットと HP で見ることができる。

「地域と一体となった鬼怒川での外来種対策の取り組み」

[http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/04\\_ryuik/gairaisyutaisaku/h24.pdf](http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/04_ryuik/gairaisyutaisaku/h24.pdf)

1. 鬼怒川れき河原の自然を守る
2. れき河原の自然を守る私たちのシナダレスズメガヤ対策
3. シナダレスズメガヤ除去マニュアル
4. 鬼怒川の自然を守ろう(小学生向け)
5. 鬼怒川の外来種対策を考える懇談会 作業カレンダー
6. イベントのお知らせ



### 平成 25 年 シナダレスズメガヤ除去・カワラノギク保全 作業カレンダー

☺は「うじいえ自然に親しむ会」の行事予定、☾は「押上水神会」の行事予定です。

シナダレスズメガヤ		時期	カワラノギク	
除去カレンダー	生活環		生活環	保全カレンダー
<p>◎南アフリカ原産の外来植物（イネ科多年生草本）</p> <p>◎道ばたや河原等に生育し、砂が多いところを好む。</p> <p>◎地面に届く太陽の光を遮るので、河原等に生育する他の植物の成長を妨げる。</p>		<p>1月</p> <p>2月</p>	<p>◎環境省レッドデータブック絶滅危惧種（IB類）</p> <p>◎河川のれき河原にのみ生育可能な二年草。</p> <p>◎鬼怒川中流域では、シナダレスズメガヤの拡大によって、1996年以降著しく減少している。</p>	
<p>H23.1.27</p>	<p>成長(種)</p>		<p>種子(風散布)</p>	

② 外来植物の除去、カワラノギクの保全・再生活動については、地域と一体となって、楽しみながら持続することが重要であることを再認識した。

(3) 「桂川・相模川流域協議会」「カワラノギクを守る会」の交流会

10月12日(土) 10:30～ 馬頭温泉「元湯東家」

- ① 海老名駅西口集合してマイクロバス(誠観光)で出発  
当日は3連休の初日に当たり高速道路の渋滞が予想され、経路を首都高速で行くか、新たに開通した圏央道(海老名～相模原愛川)(高尾山IC～)で行くか悩んだが、運転手さんの調べた情報で首都高速経由となった。
- ② 首都高速を選んだが渋滞高速に入った途端に渋滞が始まり、一部区間で順調に流れたが、東北道最初のSA(蓮田)で昼食休憩した。
- ③ 途中SAで休憩を取り、矢板ICで東北道を降りて今夕の宿“馬頭温泉 元湯東家”に向かった。…到着 16:00

- ④ 自由行動の時間を使って、那珂川沿いの探索を行った。

・関東の河川では清流として鮎漁が盛んだが、この時期の落ち鮎漁は「縄張り」と呼ばれる漁が主体であった。群れて下ってきた鮎が障害物の縄張りに沿って回遊するところを狙って投網で捕獲する。通常待っている人の内、二人が待ち構えていて投網する権利があり、一番、二番の優先順位があり一番から順番に打って行くそうである。縄張り漁はあまりにも鮎が取れすぎるために論争に発展することもあるそうである。

- ⑤ 地元のおばあちゃん(82歳)に那珂川のお話が聞けて大変参考になった。

・1998年の那珂川流域の豪雨・大洪水では増水して旅館のすぐ下まで水が来て怖かった。対岸の那珂川町側では堤防を水が越えて氾濫し、上流から牛が流されてきたのが今でも鮮明に思い出されると優しい口調で話をされた。…おばあちゃんのお宅は「元湯東家」の分家とのことでした。



那珂川の歴史を語るおばあちゃん



・馬頭温泉の湯は那珂川の河原から湧き出ているのを万延元年（1860年）に地元の百姓が願い出て利用始めたのが最初である。その時の古文書のコピーが風呂の入口に掲げられている。・・・内容は、現代語訳では「約束事、取り交わしの書状と為す」と書かれてあった。現在の馬頭温泉は宿泊した「元湯東家」が戦後に河原の源泉から湯を引いて旅館を開いたのが始まりとのことである。



- ⑥ 翌朝、下流に歩き川に向かって降りていくと、投げ釣りをしているグループがあった。何の魚が釣れるか聞いたところ「鮭」と言われ、釣った鮭を見せてくれた。何で那珂川では鮭を釣って良いのか疑問だった。



後で出かけた峯谷代表が釣りしている人に尋ねたところ、「釣っている人は増殖のため特別に許可された人」だそうでした。・・・許可を受けるには 流域市町村に確か 3 年以上住んでいて、漁協の正組合員であること、組合長の推薦が必要などの決まりがあるようです。

- ⑦ 温泉は弱アルカリ性で入浴後の肌がすべすべと感じられた。  
 ・・・・夕食に出た「鮎の塩焼き」は絶品でした。 (おわり)

